

一般社団法人日本化学連合

2019年度事業報告

日本化学連合が「任意団体」から「一般社団法人」に移行してから10年目となり、岩澤康裕会長のもと、副会長、理事、監事が協力して運営にあたり、本年度の活動を展開した。

具体的には、運営委員会ではおもに化学コミュニケーション賞2019の実施、企画委員会では第13回日本化学連合シンポジウムの企画、また将来構想委員会および政策提言・情報発信推進WG合同委員会では経産省から学会支援を得るための提案を検討の上、作成した。

さらに、昨年スタートした化学系学協会連絡会（正会員14学協会、連絡会会員9学協会、オブザーバー参加5学協会）の具体的活動として、定例会議を2回実施した。第1回定例会議では文科省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)の林和弘氏から「理工医学系電子ジャーナル、オープンアクセスの動向に関して」という演題でご講演頂き、化学連合会員学協会からはオープンアクセス、会誌の電子化などの現状報告を行った。第2回定例会議では、「学術集会（年会、シンポジウムなど）支援企業からのプレゼンテーション」を(株)JTB、京王観光(株)、(株)国際文献社、近畿日本ツーリスト(株)に依頼し、学協会からは外部委託状況について現状紹介を行った。

1. 会員の増減

本年度の正会員の会員数は14学協会、賛助会員は団体会員2で変わらなかったが、賛助会員（個人）4減の4となった。また、化学系学協会連絡会会員数は9学協会に変化はなかった。

2. 日本化学連合2019年度活動報告

2.1 化学コミュニケーション賞2019

当連合の設立趣旨の一つである「化学関係団体が賛同して開催する事業」を強化・発展させるために、化学と化学技術に関する啓発活動や情報発信を行うことによって、化学教育、化学産業の育成、および発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度を、平成23年（2011年）度に「化学コミュニケーション賞」として創設した。本年度も、運営委員会委員を中心として「化学コミュニケーション賞2019」を企画・実施した。

[運営委員会]

委員長	吉江 尚子	(代表理事 副会長；高分子学会)
副委員長	村松 淳司	(理事 東北大学；会長推薦理事)
委員	里川 重夫	(理事 触媒学会)
委員	澤本 光男	(理事 日本化学会)
委員	関根 泰	(理事 石油学会)
委員	渡部 恭吉	(常務理事)
オブザーバー	岩澤 康裕	(代表理事 会長；日本化学会)

本年度の「化学コミュニケーション賞2019」は、当連合の主催、(株)化学工業日報社、(一社)化学情報協会、(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会の共催、(国研)科学技術振興機構、(公社)新化学技術推進協会に後援をいただき、実施された。2019年10月1日に募集を開始し、12月10日に締め切ったところ、個人11件、団体5件、計16件の応募があった。

[化学コミュニケーション賞2019 賞選考委員会]

委員長：吉江 尚子（東京大学 生産技術研究所 教授）

委員：内田 麻理香（東京大学 特任講師・サイエンスライター）

- 委員：佐藤 健太郎（サイエンスライター）
- 委員：里川 重夫（成蹊大学 理工学部 教授）
- 委員：関根 泰（早稲田大学 先進理工学部 教授）
- 委員：村松 淳司（東北大学 多元物質科学研究所 所長）
- 委員：安永 俊一（(株) 化学工業日報社 取締役 営業企画本部長）
- 委員：山本 伸一（化学情報協会 企画管理室長）
- 委員：渡辺 政隆（日本サイエンスコミュニケーション協会 会長）
- 委員：渡部 恭吉（日本化学連合 常務理事）

これらの応募案件について、上記の選考委員が書面審査を行ったうえ、2020年2月3日に開催した最終選考委員会で、化学コミュニケーション賞3件（団体2件、個人1件）と審査員特別賞1件（団体）を決定した。

化学コミュニケーション賞 2019（団体）

受賞者：元素周期表同好会

業績の表題：元素および元素周期表の普及における貢献

化学コミュニケーション賞 2019（団体）

受賞者：トクヤマ化楽くらぶ

業績の表題：身近な材料で化学を体感する

化学コミュニケーション賞 2019（個人）

受賞者：坂根弦太（岡山理科大学）

業績の表題：元素、原子、電子の児童、生徒 への啓発活動

化学コミュニケーション賞 2019 審査員特別賞（団体）

受賞者：東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST

業績の表題：学生による化学コミュニケーションへの貢献

表彰式は、3月6日に開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期し、状況をみて4月以降のしかるべき早い時期に開催することとした。

2.2 第13回日本化学連合シンポジウム

本シンポジウムは企画委員会が担当し、「AI、IoT活用による実験のスマート化」を主題として、「化学実験」に焦点を絞り将来の実験室像についての議論を企画し、3月6日開催予定とした。しかしながら、上述の表彰式と同じく新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期し、状況をみて4月以降のしかるべき早い時期に開催することとした。

[企画委員会]

- | | | |
|------|-------|------------------|
| 委員長 | 長谷部伸治 | (代表理事 副会長；化学工学会) |
| 副委員長 | 荻野 賢司 | (理事 繊維学会) |
| 委員 | 窪田 好浩 | (理事 日本ゼオライト学会) |
| 委員 | 目 義雄 | (理事 日本セラミックス協会) |
| 委員 | 佐藤 縁 | (理事 電気化学会) |
| 委員 | 松方 正彦 | (理事 日本膜学会) |

委員 丸岡 啓二 (理事 京都大学)
委員 渡部 恭吉 (常務理事)
オブザーバー 岩澤 康裕 (代表理事 会長 ; 日本化学会)

化学コミュニケーション賞 2019 表彰式
第 13 回日本化学連合シンポジウム

日時 2020 年 3 月 6 日 (金) 12:45~ 17:50

会場 化学会館 7 階 ホール

主催 (一社) 日本化学連合

共催 (株) 化学工業日報社、(一社) 化学情報協会、(一社) 日本サイエンスコミュニケーション協会

後援 (国研) 科学技術振興機構、(公社) 新化学技術推進協会

< 12:40~12:45 > 開会挨拶 岩澤 康裕 (日本化学連合会長)

< 12:45~13:45 > 第 1 部 化学コミュニケーション賞 2019 表彰式

司会 関根 泰 (日本化学連合理事)

< 12:45~12:55 > 選考委員長挨拶・選考結果説明

吉江 尚子 (日本化学連合副会長・化学コミュニケーション賞選考委員長)

< 12:55~13:05 > 授与式

< 13:05~13:45 > 業績紹介

化学コミュニケーション賞 2019 (団体)

「元素および元素周期表の普及における貢献」

元素周期表同好会

化学コミュニケーション賞 2019 (団体)

「身近な材料で化学を体感する」

トクヤマ化楽くらぶ

化学コミュニケーション賞 2019 (個人)

「元素、原子、電子の児童、生徒 への啓発活動」

岡山理科大学 坂根弦太

化学コミュニケーション賞 2019 審査員特別賞 (団体)

「学生による化学コミュニケーションへの貢献」

東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST

< 13:45~14:00 > 休憩

< 14:00~17:45 > 第 2 部 第 13 回日本化学連合シンポジウム「AI、IoT 活用による実験のスマート化」

< 趣旨 > 産官学共に研究者に課せられる補助的な業務は増加の一途をたどっています。そのような中で化学研究力を向上させるためには、最新の情報技術を用いた研究の効率化が不可欠です。本シンポジウムでは、「化学実験」に焦点を絞り、大学や産官研究所の研究者をサポートする技術について講演いただき、将来の実験室像について議論致します。

< 14:00~14:05 > シンポジウム趣旨説明

長谷部 伸治 (日本化学連合副会長・企画委員会委員長)

< 14:05~14:40 >

1) 「実験データの電子化とその活用」

ダッソー・システムズ(株) 菅谷 信敬

<14:40~15:15>

2)「大学において電子実験ノートをいかに利用するか」

早稲田大学 山口 潤一郎

<15:15~15:50>

3)「有機合成化学者が欲しいデータベースとは」

京都大学 松原 誠二郎

<16:00~16:35>

4)「AI・ロボット技術を活用した新化学の展開」

横浜薬科大学 高橋 孝志

<16:35~17:10>

5)「スモールデータの壁を乗り越えるための MI 技術」

統計数理研究所 吉田 亮

<17:10~17:45>

6) 総合討論

「研究室内での実験データの蓄積・有効利用・・・AI、IoT 技術を用いた実験の効率化」

<17:40~17:45> 閉会の挨拶

黒田 一幸 (日本化学連合副会長)

<18:00~19:30> 交流会

2.3 将来構想委員会および政策提言・情報発信推進 WG 合同委員会

2019年5月23日(木)に将来構想委員会と政策提言・情報発信推進 WG の合同委員会を開催し、経産省からの支援が得られる提案を取りまとめた。

現在、化学は天文関係、医学生命関係、素粒子関係などに比べると存在感が薄くなってきている。日本化学連合はこれを打破し、正しい認識を持ってもらうことが必要である。2018年度に連絡会を作り、オブザーバーも入れると14学協会の参加があり、正会員の14学協会とあわせ28学協会となり、化学系の主な学協会はほとんどカバーできるようになった。

一方、2018年度第2回定例会議で講演をお願いした経産省の福島審議官は講演の中で、「予算の一部を学会支援に用いてもよい」との発言があった。この機会に日本化学連合の政策提言・情報発信推進活動の一環として、経産省から学会支援を得るための提案資料を検討の上、作成した。残念ながら、経産省の窓口の担当者が転籍されたため、まだ説明できていない。

[将来構想委員会]

委員長	黒田 一幸	(代表理事 副会長；日本セラミックス協会)
副委員長	大塚 浩二	(理事 クロマトグラフィー科学会)
委員	平尾 雅彦	(理事 化学工学会)
委員	鈴木 慎一	(理事 日本化学会)
委員	関 隆広	(理事 高分子学会)
委員	高橋 嘉夫	(理事 日本地球化学会)
委員	吉松賢太郎	(理事 日本薬学会)
委員	渡部 恭吉	(常務理事)
オブザーバー	岩澤 康裕	(代表理事 会長；日本化学会)

[政策提言・情報発信推進WG]

委員長	岩澤 康裕	(代表理事 会長；日本化学会)
委員	吉江 尚子	(代表理事 副会長；高分子学会；運営委員会委員長)
	長谷部伸治	(代表理事 副会長；化学工学会；企画委員会委員長)

黒田 一幸 (代表理事 副会長; 日本セラミックス協会; 将来構
想委員会委員長)
鈴木 慎一 (理事 日本化学会)
吉松賢太郎 (理事 日本薬学会)
関根 泰 (理事 石油学会)
佐藤 縁 (理事 電気化学会)
高橋 嘉夫 (理事 日本地球化学会)
渡部 恭吉 (常務理事)

2.4 化学系学協会連絡会

2018年7月から化学工学会、高分子学会、日本化学会、日本薬学会のメンバーからなる連絡会幹事会を設置し、化学系学協会連絡会の発足に向けた準備行い、化学系学協会事務局に連絡会への加盟を呼びかけた結果、正会員14学協会に加え9学協会が加盟し、さらに5学協会がオブザーバーとして参画した。

連絡会会員学協会：

日本化学連合参画14学協会、火薬学会、錯体化学会、DVX α 研究協会、
日本ケミカルバイオロジー学会、日本表面真空学会、日本放射化学会、日本放射線化学会、
表面技術協会、粉体粉末冶金協会

オブザーバー学協会：

安全工学会、資源・素材学会、日本農芸化学会、日本分析学会、有機合成化学協会

[連絡会幹事会]

委員	重光 英之	(化学工学会 理事・事務局長)
委員	平坂 雅男	(高分子学会 代表理事常務理事・事務局長)
委員	鈴木 慎一	(日本化学会 事務局長)
委員	吉松賢太郎	(日本薬学会 常任理事)
事務局	渡部 恭吉	(常務理事)
オブザーバー	岩澤 康裕	(代表理事 会長 ; 日本化学会)

本年度は幹事会を4回、定例会議を2回開催した。

化学系学協会連絡会 2019年度第1回定例会議

日時：2019年10月8日(火) 10:00~12:00

会場：化学会館6階会議室

プログラム：

10:00~10:15 開会挨拶 日本化学連合会長 岩澤康裕

10:10~10:50 講演

「理工医学系電子ジャーナル、オープンアクセスの動向に関して」

文部科学省科学技術・学術政策研究所 (NISTEP)

科学技術予測センター 動向分析基盤ユニット

林 和弘

10:50~11:05 名刺交換会

11:05~11:55 学協会から運営・課題の提供

・化学連合会員学協会から、オープンアクセス、会誌の電子化などの現状報告

日本化学会、化学工学会、日本薬学会

・ 質疑

化学系学協会連絡会 2019 年度第 2 回定例会議

日 時：2020 年 2 月 25 日(火) 10：00～12：35

会 場：化学会館 6 階会議室（東京都千代田区神田駿河台 1-5）

プログラム：

10:00～10:10 開会挨拶
司会：吉松(日本薬学会)
日本化学連合会長 岩澤康裕
学術集会（年会、シンポジウムなど）支援企業からのプレゼンテーション
(プレゼン：15 分、質疑：5 分、名刺交換：5 分)

10:10～10:35 株式会社 JTB 殿

10:40～11:05 京王観光株式会社殿

11:10～11:35 株式会社国際文献社殿

11:40～12:05 近畿日本ツーリスト株式会社殿

学協会から外部委託状況について現状紹介

司会：平坂(高分子学会)

12:05～12:30

日本化学会、高分子学会、化学工学会、日本薬学会、触媒学会
総合討論

3. 会計

収入の部

正会員学協会からの会費収入は予算通り、賛助会員（団体）からの会費収入は 25 万円、賛助会員（個人）からの会費収入は 5 万円であった。また、化学系学協会連絡会の会費として昨年未納分を含め 9.5 万円の収入があった。さらに、本年度も（株）化学工業日報社および（一社）化学情報協会より、当連合主催事業「化学コミュニケーション賞 2019」の活動に対して共催金として 100 万円（@50 万円×2）の補助を受けた。また、講演会等収入は 3 月 6 日開催予定のシンポジウムを、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期したこと、さらに、これ以外のシンポジウムは企画しなかったため対予算 58 万円の収入減となり、当期収入合計は 5,307,556 円であった。

支出の部

会議費は予算額に比して約 20 万円減少した。事業費は新たにシンポジウムを企画しなかったこと、3 月 6 日開催予定の表彰式とシンポジウムを延期したため、コミュニケーション賞の賞金など 43 万円、シンポジウムの講演謝礼など 26 万円の合計約 70 万円が 2020 年度に繰り越しとなった。この結果、事業費合計は、予算額に比して約 116 万円の支出減となった。一方、管理費合計は、事務職員が 1 名退職したため、予算額に比して 54 万円の支出減となった。この結果、当期支出合計は 3,896,921 円となり、予算額に比して約 190 万円の支出減となった。

結局、当期収支差額は約 141 万円のプラスとなり、次期繰越金は 5,985,423 円となった。なお、コミュニケーション賞およびシンポジウム繰り越し分の約 70 万円を除くと当期収支差額は約 71 万円のプラスであった。

4. 処務の概要

4.1 定時社員総会	1 回
通常理事会	4 回

(第4回通常理事会は、第3回通常理事会との議題の重複を避けるために、メール審議を実施)

4.2 理事21名、監事2名

4.3 委員会など

運営委員会	1回
企画委員会	1回 (シンポジウムの企画についてのメール討議)
将来構想委員会および政策提言・情報発信推進WG合同委員会	1回
化学コミュニケーション賞最終選考委員会	1回
化学系学協会連絡会幹事会	4回
正会員学協会会長・事務局長会	1回
監査会	1回

以上